

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	日野町立桜谷小学校STEAM教育委員会
コース	学習支援コース
活動・研究のテーマ	地域の水と土と森を生かしたSTEAM教育の推進
〈活動・研究の意義および活動報告〉	
1, 活動に至る経緯	
<p>本校は、田と山に囲まれたのどかな農村地帯にあり、来年創立150周年を迎えます。学校裏の山には、小さな学校の森とビオトープ池と遊具が設置されており、子どもたちの学習や遊び場や地域の人の憩いの場にもなっています。また、校区一帯は古琵琶湖の粘土が堆積しており、校区を流れる桜川の水と粘りのある土室を生かした美味しい米づくりが行われています。</p> <p>学校では、これらの自然を生かして、学年に応じた「うみ（川・湖）の子」「やまの子」「たんぼの子」の学習を行っており、特に、生活科や理科、社会化、家庭科、総合的な学習などの教科領域では、身近な自然である「川と生物と農業」「森林と里山」「流れる水の働き」「四季の変化」「川と琵琶湖」などと関連させて学習を進めているところです。</p> <p>本年度は桜谷地域の里山の環境文化資源を再発掘し、STEAM教育の視点でカリキュラムを組み立てて、桜谷ならではの学びをつくっていきたくと考えています。</p>	
2, 活動・研究の目的（ねらい）	
<ul style="list-style-type: none">・身近な地域資源（水と月と森）を可視化し、得た環境情報を生かしてふるさとの良さを発見する学習を展開して、子どもたちのトポフィリア（場所愛）を増やす。・STEAMの学びを形にするために、学校裏山を「桜谷SDGs」の森にして未来につなげ、地域の宝にする。	
3, 活動内容	
S（科学）T（技術）E（工学）	
<ul style="list-style-type: none">・自然を生かして、学年に応じた「うみ（川・湖）の子」「やまの子」「田んぼの子」の学習を進める。 <p>うみの子・・・滋賀県の5年生全員が経験するびわ湖フローティングスクールという事業であるが、その中で琵琶湖を中心とした環境について学ぶ。本校は、その乗船までに琵琶湖に流れ込む川（日野川・佐久良川）の水質や水生生物を調べ、びわ湖との関りをさらに深く学ぶためにうみの子での学習に向かった。</p> <p>やまの子・・・4年生の学習で、本校に裏山があるが、多賀町にある高取山の施設で森林の働きなどを学習した。木々には、日々触れているが、森の中での樹木の役割を学習したことで、裏山を違う視点で見られるきっかけとなった。理科の学習で、「私の好きな樹」として樹を決めてその木の様子を観察し、触れ合ってきた。</p> <p>たんぼの子・・・5年生を中心に3, 4, 5年生で田植えから稲刈りまでの経験をしている。地域の方々が多く支援をしてくださって、植え方の指導や機械での作業を実際される様子も見せていただく。稲刈りをした後は、脱穀や乾燥される場所も見学し、米作りについて学ぶ。大切に育てられた米は、参観日で販売をしたり、「森のレストラン」という地域の方への感謝の会での調理に使ったりしている。</p>	

・土地柄を生かし、農業・農作業の経験を通して、技術継承の重要性、栽培の楽しさ、野菜などの食品の生かし方などを学ぶ。日野菜の栽培・・・3年生が郷土の野菜日野菜を種まきから経験して栽培した。植え方、間引き方、肥料の施し方など地域の名人に来校いただき、時期に合わせたご指導の下行った。収穫した、日野菜は伝統的な「日野菜漬け」として漬けたり、郷土料理の会の方から日野菜を生かした料理を教えていただいたりして、お世話になった日野菜名人と一緒に食べる体験をした。



A (芸術)

・学校のシンボルでもある裏山は、子どもたちにとって恰好の遊びの場である。また、裏山を走ったり、その中のアスレチック遊具を使ったりして体力づくりも行っている。また、四季の自然を観察するなど理科の時間にはそのものが学習環境となる。子どもたちは、来年度に150周年を迎えるにあたって、その裏山を大切に使い、これからも大事な裏山として守っていくには、どうすればいいかということ考えた。この時、同じ古琵琶湖層の土を生かして焼き物づくりで有名な信楽から陶芸家の方や次世代文化芸術センターの方が指導に来てくださった。この地域の良さを他地域の方から見て素晴らしい所だと伝えていただくことで、これまで以上にこの地域に対して誇りを感じた子どもが多かった。そのため、「裏山を守ってくれる守り神を造ろう」と、桜の花びら型の粘土に思い思いの守り神をレリーフのように作成した。地域の方も、一緒になって作成され、その作品は、裏山にあるテーブルや階段、水車の近くなどに設置して、いつでも、いつまでも鑑賞できるようにした。



M (数学) 授業改善を工夫し、基礎・基本の定着を図っている。

H (heart:心情・思いやり)

・STEAM教育の頭文字にはないが、本校ではH:心情・思いやりということを活動全体を通して子どもたちが学ぶことを大事にしている。自分や人の良さをきちんと認められることを大切なことだと考えている。そこで、「ポジポジさん」とネーミングして、頑張っている子ども、誰かに思いやりを持った行動がとれている子どもを全校的に紹介している。その中では特別な頑張りだけでなく、当たり前のことを真面目に取り組んでいることもしっかり認めようとしている。次に来る人のためにそっとドアを開けて持っている子どももいて、子ども同士で、また地域の方へその温かさが広がっていくことを期待もしている。

・「森のレストラン」という感謝の気持ちを地域の方に伝える会では、1, 2年生は自分たちが地域の方の支援を得ながら育てたさつまいもや大根を料理ができるようにきれいに洗うという役割をした。3, 4年生は、お世話になった地域の方々へ招待状を書いて送る役割だった。5, 6年生は、会場づくりと栽培した材料を使って味噌汁づくりを行った。それぞれが役割を心を込めて行うことで、今までの感謝を伝えた。



4, 子どもたちへの効果 (成果・課題)

自然の恵みである水や土、森は、子どもたちが日々様々な形で触れている。それを通して、自分たちの生活するこの地域の良さに気づき、更に深く学ぼうという意欲につながった。それは、その自然と学習を結び付けてくださった地域の方の支援のお陰であると考えます。地域の方からその地域を学ぶ、そのことの良さに改めて気づいた。今後も方法については改善しながら、子どもたちが地域の良さ、自然の恵みを感じられる取り組みをしたい。